

枝企画第123号

平成20年10月7日

国土交通省道路局長 様

枝幸町長 荒 屋 吉 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

(回答)

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のありました標記の件に係る意見について、別紙のとおり提出します。

(企画課企画係)

限られた財源の中で道路行政を効率よく推進するため、「費用対効果」「利用率」「受益人口」等の指標が一定程度必要なことは理解するが、これらの指標など数字本位の順位付けだけで道路行政が推進されるならば、地域間格差や過疎問題は拡大するばかりであり、地方は疲弊するばかりである。

広大な北海道においては、その根幹をなす縦貫・横断自動車道さえ未だ完成しておらず、既存空港までのアクセスが90分以上であり、かつ道央圏までのアクセスに120分以上を要する、いわゆる高速交通空白地域も多く存在している。

当町では、高速交通空白地域解消のためコミュニティ空港の建設誘致運動を始めて20年が経過しているが、国・航空審議会での離島以外の新規空港建設抑制方針や、事業主体となる道財政の悪化などによりその実現は極めて困難な状況となっている。国・道においては、航空行政や社会資本整備方針等での転換に伴い大きな影響を受ける地域に対して、例えば航空行政と道路行政の連携から新たな解決策（例：コミュニティ空港→高速道路）を示すことが肝要と考える。

また、このような高速交通網が未完成の状況で費用対効果に基づく評価が行われたり、本来人口密度が希薄な地域に全国一律の指標を持ち込むこと自体に問題があると考ええる。

広域生活道路については、国・道出先機関の統廃合や病院の中核化が進められる中、それら機関とのアクセス強化・向上を図る上で極めて重要な意味を持っている。一方で行革などにより組織（国・道出先機関、医療機関等）の効率化・統廃合を求め、一方で費用対効果を第一義とする都市・過密地域中心の道路行政を行うようなことでは、地方・過疎地に不便だけを押しつけることになる。

今後は、不便や不利益が特定の地域に偏らないよう、各種機関の統廃合や中核化を行う場合には一定の道路をはじめとする社会基盤整備を前倒しするなど、総合的な見地による政策展開が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案
②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

〔道路網〕

当町の道路網は、国道238号（52.3km）と主要道道枝幸威子府線、美深中頓別線、一般道道歌登咲来停車場線など道道10路線（136.9km）、その他町道、農・林道499路線、（651.9km）と、道路実延長の総計は841kmに及んでいる。

この内、中心市街地、歌登市街地からは、一般道道歌登咲来停車場線が、道央や中核医療を担う名寄市へのアクセス道路となっている。

また、行政面積においても道都札幌市に匹敵する1,115.67平方キロ（東京23区面積の約2倍）と広大であり、道道・町道等の道路網によって散在する集落間の連絡や農林水産資源の利活用が図られている。

中心市街地においては、都市計画道路「オホーツク通」が整備されるところに、歌登市街地においては、「市街地まちなみ整備事業」により、両市街地の域内交通の円滑化や事業沿線で一定の景観形成が図られている。

また、主要道道美深中頓別線天の川トンネルが開通するとともに、一般道道歌登咲来停車場線の咲来峠の改良が完了し、国道40号線へのアクセスの大幅な改善が図られた。現在は、枝幸威子府線の旧枝幸・歌登町界付近において、「歌登トンネル」の開削・線形改良工事が進められており、平成20年の供用開始により危険箇所が解消による利便性・安全性の向上が期待される。

〔高速交通〕

当町を含む南宗谷地域では、札幌・道央圏と遠隔地にあり、鉄道をはじめとして高速道路や空港など高速交通の恩恵を十分に受けることができない、いわゆる高速交通空白地域となっている。

○課題

〔道路網〕

自動車交通の発展は、町の産業や生活水準の向上に欠かせないことから、今後も、国・道と連携しながら、町内外の広域幹線道路や生活道路、農林道の計画的な整備を進めるとともに、除雪や凍結路面などの冬道対策を一層充実していくことが求められる。

左欄で記述したとおり、海岸に沿って走る国道238号と主要道道や主要な一般道道、主要町道等が町界各所で連結交錯しているため、相互連携した整備が必要となる。

また、救急・緊急車両が一定以上の速度で走行できるよう、既存道路の線形改良や安全性を確保した上での高速化が課題である。

特に、町管理道路については、道路延長が長大なため、補修・維持管理が課題である。

一方、花や緑と調和した道路景観づくりや、人にやさしい道づくりなど、道路環境の質的な向上も必要である。

〔高速交通〕

観光・ビジネス面での不利・制約や、カニ・ウニなど鮮度が重要な高付加価値食材の一大供給地としての特性が生かし切れておらず、大きな経済的損失になっているほか、平時はもとより、災害・緊急時において、アクセスの悪さなどから、稚内以南で北オホーツク唯一の地方港湾である枝幸港が持つ多面的な機能・役割を十分に発揮できないことが予想される。

また、高速道路の整備延長とアクセスの向上などにより高速交通空白地域の解消・緩和を図っていくことが求められる。

○まちづくりの基本理念

これまで旧枝幸・歌登両町それぞれで築き上げてきたまちづくりの成果を融合・発展させ、美しく豊かな枝幸町を子どもたち、孫たちの世代へ受け継いでいくために、住民と行政が協働でまちづくりを進めるための基本理念を次のように掲げている。

①「こころ」が結ぶまちづくり

合併後の一体的なまちづくりを進めるために、最大の鍵になるのは、住民一人ひとりの「こころ」の結びつきである。お互いがお互いに関心を持ち、個性を尊重しあい、まちぐるみでもとに支えあい、新たな創造性を発揮する「『こころ』が結ぶまちづくり」を進める。

②「優しさ」で包み込むまちづくり

家族や友人、知人、そしてふるさととの自然への優しさ。この優しさが、何ものにも代えがたい私たちの財産である。この地に住む全ての人々、こゝに高齢者や障がい者、子どもたちなど、支援を必要とする方々と、森と海が織りなす美しく神秘的な自然の生態系を「『優しさ』で包み込むまちづくり」を進める。

③「活気」あふれるまちづくり

人々がいきいきと働き、子どもから高齢者までみんなが元気に活動できることを、住民一人ひとりが強く願っている。恵まれた自然を活かしながら、知恵と工夫で「新・枝幸ブランド」の形成を図り、森の資源、海の資源、それぞれの特性を活かし、また融合した地域産業の息づく「『活気』あふれるまちづくり」を進める。

○将来像

私たちの住む新・枝幸町は、森と海の豊かな自然に恵まれていて、先人たちは、この豊かな自然と共生した日々の生活の中から、多くの産業や文化を生み出し、一人ひとりが支えあう、潤いと活力のあるまちを築いてきた。21世紀を迎え、わが国全体が少子高齢化や環境問題、産業活性化などに多くの課題を抱える中、枝幸町がこれからも住民や訪問客の笑顔があふれ、みんなに愛されるまちになっていくためには、町の将来の姿（将来像）を思い描き、住民と行政が協働で、町の特性を伸ばし、課題を改善しながら、そのめざす姿に近づいていくことが重要である。

合併後策定した新・総合計画では、新・枝幸町の将来像を「こころが結ぶ『森と海』優しさと活気あふれる北の理想郷」と定め、森と海に象徴される豊かな自然と共生しながら、新たな「北の理想郷」を築いていくこととしている。

今後の道路行政については、関係官庁や上川北部地域等との連携を深めながら、住民にとって利便性の高い、また安全で迅速な移動ができる社会基盤として整備していくことが望ましい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
■人に優しい健康福祉のまち	・高齢者や障がい者に優しい施設整備の一環として市街地道路のバリアフリー化を進める。 ・中核的な高度・専門的医療機関のある名寄市や旭川市へのアクセス向上。	・道路が持つ「機能」に福祉的な視点を加えることで「人に優しい」道路の実現を図る。	
■活力ある産業を育てるまち	・農地、林地の有効活用や各種資機材の運搬、産業生産物搬出のため、農林道整備を進める。 ・漁獲物の付加価値を高めるため、大消費地とのアクセス向上を進める。 ・観光・レクリエーション振興を図ため、道央圏とのアクセス強化や町内道路周辺における景観向上を図る。 ・市街地道路を中心として、緑化や景観向上に努める。	・基幹的な道路につながる生活・生産道路の充実を図ることで、域内格差の縮小と利便性・安全性を高めることができる。 ・「気持ちのいい」道路を増やすことで、住民はもとより域外からの観光客などの地域イメージの向上を図ることができる。 ・同上	
■豊かな自然と共生するまち	・国道をはじめ、主要な道道や町道の整備を促進する。 ・縦貫自動車道の早期延伸と使いやすいインターチェンジの設置を要望する。	・既存道路の改修・改良により利便性・安全性を高めることができる。 ・自動車専用道路の計画がない地域にとって、一般道からのアクセス向上と乗降利便性の確保は、最低限の整備恩恵である。	
■安全で快適な住みやすいまち	・住民ニーズに基づき、生活環境の改善や産業振興に結びつく生活・産業路線整備を図る。 ・寒冷・積雪地であることから、除雪の強化をはじめ、凍結路面対策や交差点・歩道の堆雪緩和、視線誘導標の設置など吹雪対策を進める。 ・危険箇所改良、防護柵の設置などにより、災害に強い道づくりを進める。	・地域特性である積雪寒冷に対する施策は、通年で通行安全性を確保する上で不可欠である。	